

別紙様式 2 (シラバス見本)

授業科目名	文章表現法	大学名	作新学院大学
科目区分	VU連携講座	開講時期	前期 (4月9日～7月31日)
学部・学科等	人間文化・発達教育	曜日	未定
必修・選択区分	選択	時限 (時間)	未定
標準対象年次	全学年	授業形態	講義
単位数	2単位	授業会場	作新学院大学
担当教員名	玉城 要		
電話番号 (代表者名)	028-667-7111	e-mail アドレス	
オフィスアワー	授業終了時に面談の予約を取ってから、質問や相談に応じる。		
授業の概要	<p>&lt;授業の目標及びねらい&gt;  文章表現法では、50字～100字程度の短文レベルから始める。最終的には200字～300字程度の「不自然でなく」「誤読させない」「分かりやすい」文を書けるようになるための「型」を学習していく。</p> <p>目標①  何気なく書いている自分の「文」「文章」の問題点に気づく。</p> <p>目標②  論理的な「達意の文」を作成するにはどうすればいいかを実際に短文を作成しながら試行錯誤する。</p> <p>目標③  目標①、②を実践して、15週の授業終了時に少しでも「論理的な分かりやすい文」が書けるようになる。自分が読んでも他人が読んでも「意味が分かる文」、さらに言えば「おもしろい文」を書くにはどうすればいいかを自分の頭で考え、自分の手を動かしながら学んでください。</p> <p>&lt;前提とする知識・経験&gt;  このシラバスに書かれている事柄を読んで理解できるだけの日本語力があれば十分です。</p> <p>&lt;授業の具体的な進め方&gt;  授業の進め方についての基本型は以下の通り。  ア：授業者（玉城）は、時間割上の授業時間中にノートパソコンを携帯して教室に常駐し、インターネットへの接続を維持する。  イ：学生は、インターネットに接続し、WebClass上の資料に基づき学習を進め、指定された期限までに「課題」を提出する。  ウ：ア、イの活動を以って、一回の授業における学習は「完了」とする。</p> <p>&lt;授業計画&gt;  第1週 ガイダンス 文・文書・文章って？ あなたの日本語はだいじょうぶですか？  第2週 あなたを文章が書けないようにしているワナ  第3週 日本語は「てにをは」が命？  第4週 不自然な文とは 単語レベル  第5週 不自然な文とは ことばのつながり  第6週 誤読を招く文とは 「～が～が」文  第7週 誤読を招く文とは 「～ない～ない」文  第8週 ねじれ文を書かないために 今さらながら、主語と述語の呼応 主題って？  第9週 ねじれ文を書かないために 短文・単文を心がける  第10週 根拠→結論 大きな型  第11週 対比関係 小さな型  第12週 因果関係 小さな型  第13週 具体と抽象 小さな型  第14週 引用と要約の違い  第15週 「自分のおススメ」300字程度  「人間以外の「何か」になれるとしたら」100字以上</p> <p>&lt;教科書・参考書・教材と入手方法&gt;  教科書は使用しない。PowerPointで作製したスライド資料のpdfファイル（音声、動画は含まない。話ことばを意識した文字主体の資料とする）を提示する。必要に応じてWordで作製した資料のpdfファイルを提示する。</p> <p>&lt;成績評価法&gt;  秀：毎回の授業時に示される内容確認課題をすべて期限内に提出し、その解答が正確でほぼ不備がなく、かつ自身の見解や、調べたことがらなどが追記されている場合。  優：毎回の授業時に示される内容確認課題が期限内に8割以上提出されていて、その解答が正確でほぼ不備がない場合。  良：毎回の授業時に示される内容確認課題が期限内に7割以上8割未満で提出されていて、その解答が正確でほぼ不備がない場合。  可：毎回の授業時に示される内容確認課題が期限内に6割以上7割未満提出されていて、その解答が正確でほぼ不備がない場合。  不可：毎回の授業時に示される内容確認課題が期限内に4割以上6割未満の提出しかなくされていない場合。  無資格：上記、いずれにも該当しない場合。</p> <p>&lt;教員からのメッセージ&gt;  次に示した二つの文章表現方法に挑戦してください。  ①携帯メールを送る時に、漢字や漢語をまったく使わない。  ②「～すること」「～なこと」「～ということ」など、「こと」をまったく使わない。  どちらもかなり面倒くさく感じるはずですが、ただし、試してみるだけの価値はあります。</p>		